

研究の見通し

研究仮説：インプットからアウトプットへ

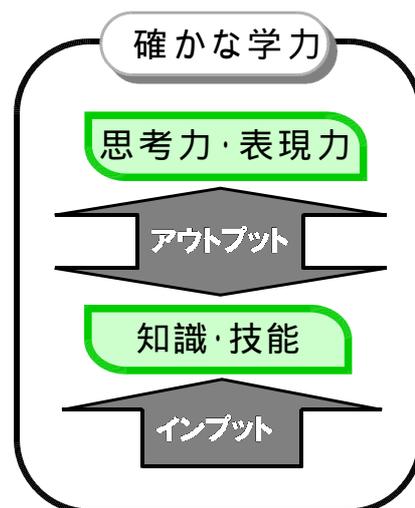
本校ではインプットとアウトプットを次のように捉えている。

インプット - 知識・技能の習得
 アウトプット - 課題に対して習得した知識・技能を結びつけ思考すること。
 思考過程や思考結果を表現していくこと

「思考力」「表現力」は、インプットしたことを繰り返しアウトプットさせることにより育成されると仮定している。

また、この過程により「知識・技能」面における学力も深化すると考えている。

したがって本研究は、繰り返しアウトプットさせる教材や指導法を開発していくものである。



研究の内容・方法

(1) 思考・表現を重視した「思考・表現道場」の設定

「思考・表現道場」とはアウトプットの間（習得した知識・技能を活用して思考し、表現する場）のことである。この「場」を必修教科において毎時間、短時間で設定している。この活動を繰り返し行い、生徒に「自分の考えや、学習した内容をまとめて書くこと」に慣れさせ、「思考力」「表現力」の基礎を育成していく。

1時間の授業構成

本校では、過去2年間の研究で成果のあった「知識・技能」定着のための繰り返し学習を授業の導入時に設定している。今年度は、「思考力」「表現力」育成のために、繰り返し学習の方法を活用し「思考・表現道場」として導入した。

繰り返し学習 (知識・技能の定着) 3～5分	本時の学習	思考・表現道場 (アウトプット) 3～5分
------------------------------	-------	-----------------------------

具体例

(ア) 国語科 2年生

毎時間の授業の最後に、授業を振り返って、学習内容を「要約」し3行で書かせる。次の時間の導入時に、記述した内容に感想や反省を付け加え200字程度にまとめて、2～3人の生徒に発表させている。また、記述した内容を毎時間集積し、ポートフォリオ評価として活用している。

(イ) 社会科 全学年

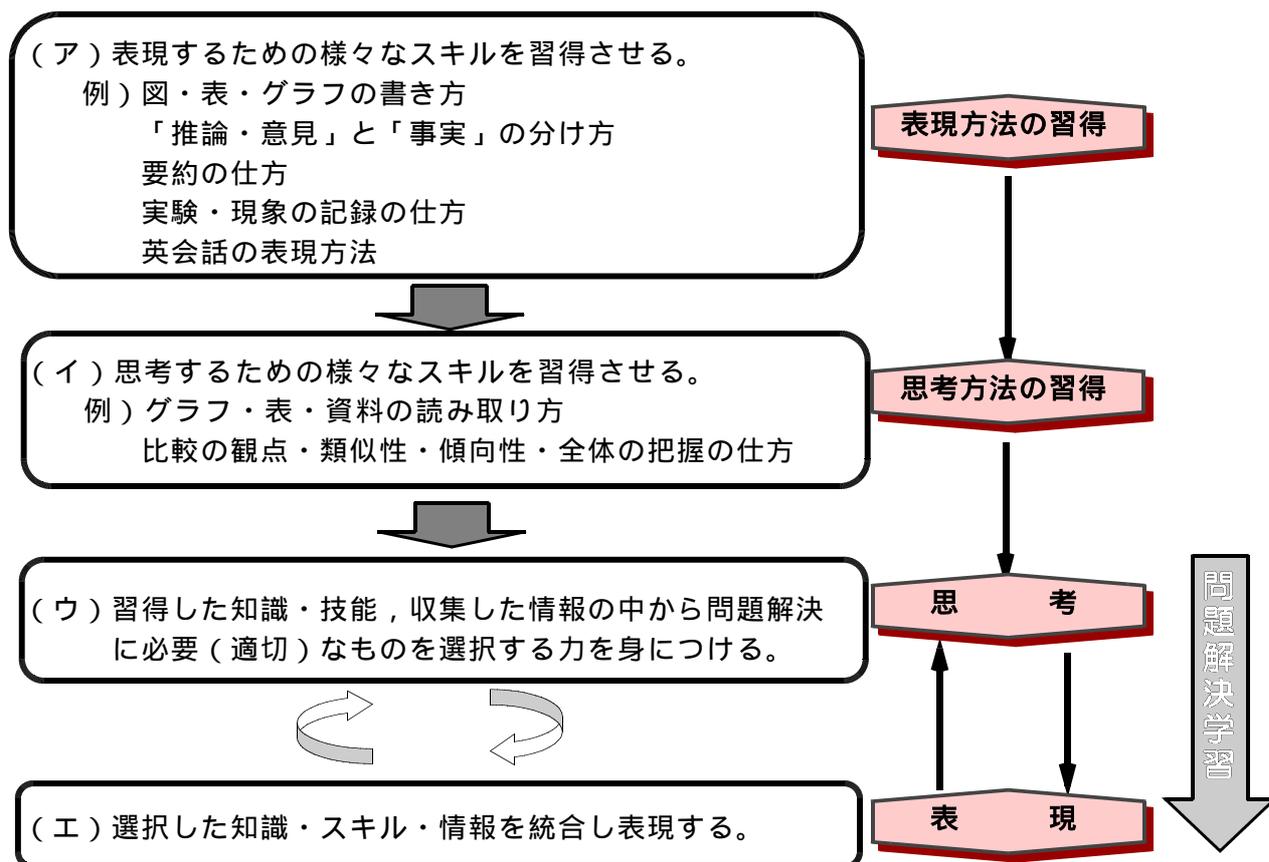
1時間の授業における学習課題を小テストとして提示し、授業の最後に自由記述させる。記述させたものは、教師が評価すると共に、ポートフォリオ評価として活用していく。

(2) 思考力・表現力を重視したカリキュラムの作成と実施

3年生選択教科において、問題解決学習を導入し、思考力・表現力の育成を重視したカリキュラムを作成・実施した。

実施教科	実施時間	学習のねらい
国語 社会 数学 理科 英語	各教科 が 1時間 前期17時間 後期17時間	思考方法・表現方法の理解 問題解決のための情報選択能力の育成 思考力 まとめる力 表現力

学習過程



。(ウ)(エ)の学習を繰り返し行った

具体例

(ア) 国語科

系統的ステップ方式の導入

<文章量のステップアップ>

STEP1: 100字以内の短い文章を書く学習

STEP2: 100字の文章を300字~400字にふくらませる学習

STEP3: 300字~400字の意見文を書く学習

<文章内容のステップアップ>

STEP1: 要点だけを絞って文章化する学習

STEP2: 事実についてのみ正確に文章化する学習

「推論や意見」と「事実」は違うことを明確にさせる。

STEP3: 「事実」と「推論や意見」を分けて2段落構成で文章化する学習

繰り返し書く活動を取り入れ、書くことに慣れさせる指導

上記の<文章量のステップアップ>及び、<文章内容のステップアップ>のSTEP2の段階を5時間使い、繰り返し何度も学習させた。

(イ) 理科

・「二酸化炭素の発生を利用したロケット発射実験」を2回行うことにより、実験の失敗について分析、思考させ、改善策を検討させる。

・「実験計画 実験 結果の分析と改善策の検討 再実験」という学習プロセスをふませ、結果(失敗)の考察と改善策を思考させる時間を設定する。

テーマ

教科の「基礎・基本」を豊かに生かす教育実践

- 「思考力」「表現力」を高めるための個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善 -

研究の見通し

インプットからアウトプットへ

(1) 個に応じた「思考力」「表現力」の育成

「思考力」「表現力」の育成過程を細やかに見取る評価方法を開発し、個に応じたきめ細やかな指導に活かす。

(2) 長期的視点に立った「思考力」「表現力」の育成

小学校・中学校9年間における学力上の課題を明らかにし、小中協同で系統的な指導を行うことにより、「思考力」「表現力」育成の土台づくりをしていく。

研究の内容・方法

(1) 思考力・表現力における評価について

思考力・表現力の育成過程を明らかにしていくための評価方法を開発する。

(2) 「思考・表現道場」及び「選択教科」において、より効果的な指導方法を工夫していく

多様な答えが考えられるような学習場面を設定していく。

問題作成学習

思考を高めるために、生徒が文章題を作成し、作成者以外の生徒がその問題を解いていく学習を行う。

学習した事を生活と結びつける問題の設定

習得した知識・技能を日常生活の中に置き換えて表現する。

(3) 「思考力」「表現力」育成にむけて、その土台となる「知識・技能」面の定着を図るため、小中連携を行う。

児童・生徒の学力分析

小・中学校で学力分析を行い、共通的に課題のある領域・分野を明らかにする。

系統的な教材開発

学力分析の結果明らかになった領域・分野について、系統的な指導が行えるよう教材を開発していく。

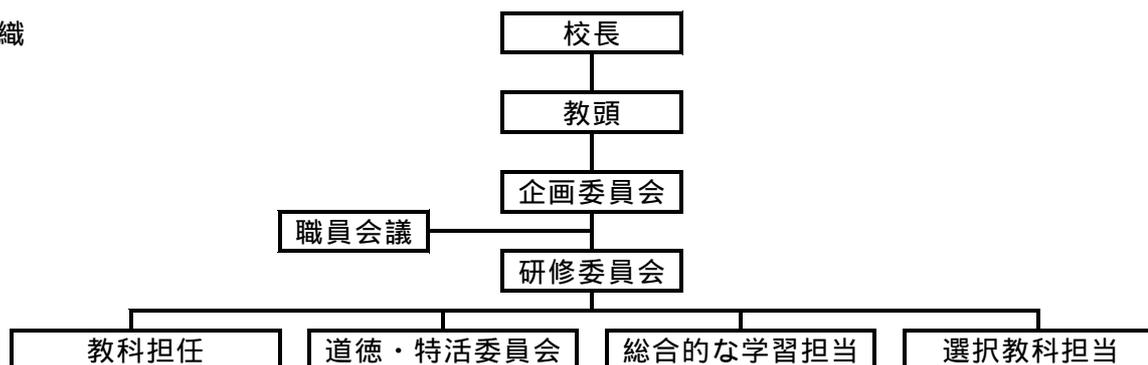
協同授業の実施

各校種の特長を活かした、きめ細やかな指導を行っていく。

- ・ 小学校6年生と中学校1年生の授業に小・中の教員が相互に乗り入れることにより、専門的で、きめ細やかな指導を実施する。

(3) 研究推進体制

研究組織



研修委員会

- ・本校の研修・研究に関する立案・計画・推進の役割を果たす委員会
- ・校長，教頭，教務主任，研究主任，各学年代表（1名×3学年）の7名で構成
- ・定期的に週1回行い，後は必要に応じて開催

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

(1) 研究前の生徒の状況及び課題

「思考力」「表現力についての課題

(ア) 平成14年度・広島県「基礎・基本」定着状況調査から

- ・数学の「数量関係」での表現処理や国語の「内容説明」など，項目によっては県平均を下回るものがある。

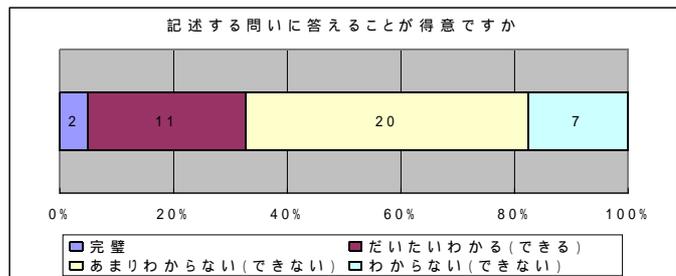
教科	学習項目	本校平均	県平均
国語	内容説明	66.7	67.5
数学	「数量関係」での表現処理	44.6	56.8

広島県「基礎・基本」定着状況調査（2年生42名、平成14年6月実施）

- ・表現能力の項目で正答率が60%を切る項目がある。

(イ) 平成15年3月生徒意識アンケートから

- ・記述する問いに答えることが得意な生徒は32.5%で，苦手意識が強い。
- ・「事実と意見を区別して自分の意見を書くことができる」と答えた生徒は50%を切っている。
- ・自分の考えをまとめて表現したり，さまざまな事象を説明することが苦手（またはわからない）という実態がある。



生徒意識アンケート（2年生42名、平成15年3月）

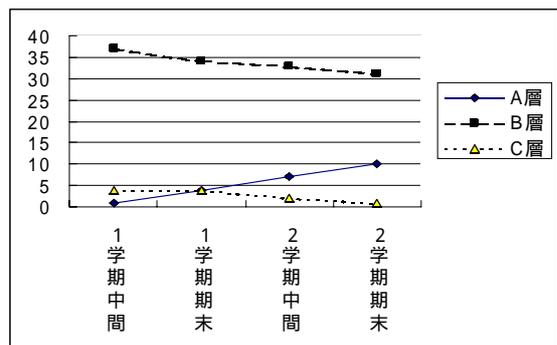
(2) 成果

思考力・表現力の観点別評価におけるC層が減少した。

定期テストにおいて，A層～C層の人数分布を分析した結果，C層が減少し，思考力・表現力の底上げができた。

「思考・表現道場」の実施により論理的に表現する力や思考する力が向上した。

社会で行った「思考・表現道場」での，毎回の評価平均値（5段階評価）が3.7から4.8へ上昇した。



(国語科 2年生42名 平成15年度)

選択教科における，問題解決学習によって，思考し表現することに対する，情意面における自信がついた。



生徒意識アンケート（選択国語 3年生16名）

2 今後の課題

- (1) 「思考力」「表現力」における，変容をより具体的に見取っていくための評価方法を検討する必要がある。
- (2) 「思考・表現道場」がより効果的に行われるよう，指導の視点を明らかにしていく。
- (3) 長期的な視点で，「思考力」「表現力」を育成していくために，小中連携の充実を図っていく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

(1) 学力調査の活用

広島県「基礎・基本」定着状況調査 毎年6月実施

対象：第2学年

教科等：「国語」「数学」「英語」「学習実態」「生活実態」

ねらい：「基礎・基本」の定着度について，客観的データを収集するため

CRT 毎年4月実施

対象：全学年

教科：「国語」「社会」「数学」「理科」「英語」

ねらい：学力の定着度について，客観的データを収集するため

(2) 校内作成学力診断テスト・意識調査の活用

到達診断テスト 年間4回（5月・8月・11月・2月）

対象：全学年

教科：「国語」「社会」「数学」「理科」「英語」

ねらい：授業での学力の定着度を評価するため

定期テスト 年間4回（6月・10月・12月・1月...3年・3月...1,2年）

対象：全学年

教科：全教科

ねらい：授業での学力の定着度を評価するため

生徒意識調査年間3回（7月・12月・3月）

対象：全学年

教科：全教科

ねらい：授業の満足度，学習意識を評価するため

学校評価アンケート 年間2回（9月・2月）

対象：全学年生徒・保護者等

ねらい：学校教育活動全体の満足度を評価するため

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 公開研究会・研修会

広島県教務主任研修会 公開授業(6/13)

広島県尾三教育事務所管内10年経験者研修(10/14)

第3回公開授業研究会(11/19)

公開研究授業（フロンティア地区協議会）(年間8回)

教育内容説明会（年回3回 保護者対象）

第4回公開授業研究会（平成16年秋予定）

(2) 地区協議会の実施

フロンティア地区協議会（毎月実施）

(3) 研修視察

広島県戸河内中学校 研修視察のため来校(8/21)
福岡県自由ヶ丘中学校 研修視察のため来校(1/15)
岡山県大島中学校 研修視察のため来校(1/29)
佐賀県大和中学校 研修視察のため来校(3/2)
岡山県伊里中学校 研修視察のため来校(3/4)

(4) 普及活動

平成15年度実践報告集作成配布
HPでの研究成果の公開（<http://www.tadanoumi-j.hiroshima-c.ed.jp/index.htm>）
日本教育新聞へ掲載（8月）
産経新聞へ掲載（9月～10月：5回連載）

(5) フロンティアティーチャラーの普及活動

フロンティアスクール中間報告会（第3回学力向上推進協議会）実践発表（2/20）
香川県中讃教育事務所フロンティアスクール中讃地区協議会 発表（2/27）
フロンティアティーチャラー研修会参加 進捗状況報告（年間7回）
学力向上推進協議会参加（年間3回）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無